



槻の若木

〒339-0054 岩槻区仲町1-14-35

電話：048-756-0254

FAX：048-758-7483

HP：<http://iwatsuki-j.saitama-city.ed.jp>Mail：iwatsuki-j@saitama-city.ed.jp

「夜空の星」

校長 小林 成行

早いもので、今年も最後の月となりました。そう、師走です。寒いせいか、夜空の星もきれいです。こんなきれいな夜空を見ていると、ふっと思い出すことがあります。それは……

もうすいぶん前のことですが、私が中学3年生の担任となり受験生を受け持った時の話です。当時の担任は、学級の公立校希望者を全員合格させることを、第一の目標としておりました。何とかして一人でも多くの生徒を希望校に合格させたいものと、補習をしたりしたものでした。現在のように、空調設備等ありませんから、夏の暑さにも、冬の寒さにもじっと耐えて勉強に力を入れました。

そんな中で、私のクラスに、態度も考え方もしっかりしたA子がいました。A子は、家庭の事情で公立校以外には進学を考えていませんでした。成績もよく、各教科平均して相当の実力を備えていました。合格まちがいなしと言うことで、私はもちろん、本人も保護者も自信を持って当日を迎えました。決して油断したわけではないと思いますが、結果は予想に反して、不合格となってしまいました。

当時も、私立校との掛持ち受験生は多くいましたが、A子は私立校を受験できない事情もあり、まったく考えていませんでした。私は幾度となく家庭訪問し、A子の苦しみを救おうと私立校への進学を勧めましたが、父親の許可を得ることはできませんでした。卒業式も間近となったある日、A子は私のところにきて「先生、勉強って自分自身が学ぶことですよね。私は、今まで先生方ばかりに頼っていました。それが失敗の原因であることに気づきました。私は定時制高校を受験します。自分の力で4年間頑張ります。」悩み苦しんだ後の結果だったのです。「よし、そうか、頑張れ。」A子の澄んだ瞳は輝いていました。

定時制高校に見事合格し、通学しはじめたA子から、月に一度は必ず連絡がありました。電話の声はいつも弾んでいました。手紙の場合は四、五枚の便箋を使って、学校生活の様子を詳しく知らせてくれました。(当時、携帯電話はなくメール等ありませんでした。)3年生になったときは、生徒会役員に立候補し、書記の仕事に専念し、生徒会誌や生徒会ニュースの発行など意欲的に取り組んでいました。

「先生、今私は校舎の屋上にいます。夜空がとてもきれいです。先生と一緒に夜の星を見たいです。私は最高に幸せです。先生、安心してください。」

4年生(定時は4年間)になったA子は、生徒会長となり、級友たちからはもちろんのこと先生たちからの信望も厚く、優秀な成績で卒業し、短大に進学しました。自ら学ぶことの手を休めることなく、短大での生活も活気に満ちていました。幼いころから読書好きで、詩を書いていました。短大では同人雑誌に詩を載せるなど文学活動も盛んに力を入れていたようです。卒業後は、フリーライターとして大活躍し、外国へもたびたび出かけたようです。数年後、アメリカから便りが届きました。苦手な英語を勉強するため苦学を続けているとのこと。A子は、学問(勉強)とは自分自身の強い意志と学ぶ意欲によって成り立つことを示してくれました。

勉強とは、他人(ひと)のためにやるものでなく、自分自身のために自らやるものなのです。

岩中の諸君、自分のためにファイト！ 誰も見ていなくとも、君自身が見ているじゃないか。

